

[山陰地方消費動向調査（平成 26 年 11 月調査）]

足元、暮らし向きはやや悪化 先行きも慎重な見通し

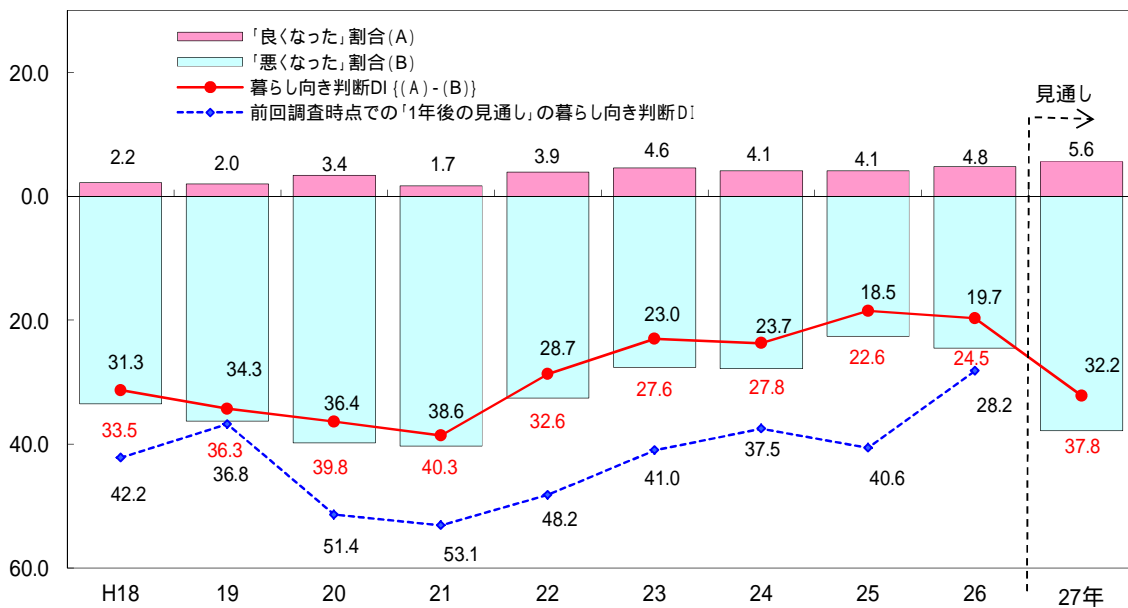
～消費増税などを背景に、足元、やや弱い消費マインド～

当研究所では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（26年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が4.8%、「悪くなった」が24.5%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）」は前回調査比1.2ポイント減の19.7と、2年ぶりにやや悪化した。

一方、先行き（27年）の「暮らし向き判断DI」は、12.5ポイント減の32.2と足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

図表1. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）の推移



例：平成 26 年の 28.2 は、25 年 11 月時点での「1 年後(26 年)の暮らし向き判断DI」を示す。

【調査要領】

1. 期 間 平成 26 年 11 月 4 日～11 月 18 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の男女
3. 調 査 方 法 山陰合同銀行の山陰両県内本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布、店頭および返信用封筒にて回収
4. 回 答 数 配布数 2,500 枚 有効回答数 575 枚（回収率 23.0%）
5. 回答者構成比 10・20 代 10.3%、30 代 20.0%、40 代 32.6%、50 代以上 37.1%

〔調査結果の概要〕

1．暮らし向き

足元(26年11月)の「暮らし向き判断DI」は前回調査比1.2ポイント減の19.7と、2年ぶりにやや悪化した。先行き(27年)は32.2と、足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

2．総収入の動向

「総収入判断DI」は前回調査比13.6ポイント増の0.9と、2年連続で改善した。10・20代では前回調査を下回ったが、全体としては改善傾向となった。

3．消費生活の動向

「消費支出額判断DI」は前回調査比9.3ポイント増の38.0と、2年連続で前回調査を上回った。
消費生活の水準(満足度)は悪化した。

4．今後の家計の重点

「貯蓄の充実(54.3%)」、「節約重視(39.2%)」に重点、堅実姿勢は依然強い。一部には「レジャー・娯楽(4.6ポイント増)」などの非日常的な消費に重点を置く姿勢もみられた。

5．家計支出の動向

この1年間で支出が増えた費目で最も回答が多かったのは、「食料・外食費(36.7%、前回調査比6.1ポイント増)」となった。物価上昇に伴い、家計の支出は増加した。今後1年間で支出を増やしたい費目で最も回答が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費(36.5%)」であった。一方、支出を減らしたい費目で回答が多かったのは「水道・光熱費(26.6%)」、「食費・外食費(25.2%)」などであった。

6．貯蓄動向

全体で「減少した」が「増加した」を上回った。年代別にみると、40代、50代以上で「減少した」と回答した割合が、他の年代に比べ高い結果となった。

7．雇用に対する不安

雇用不安は和らぐ傾向にあるものの、30代、40代では雇用不安がやや上昇した。

8．消費税増税後の消費への姿勢

全体の約2割が「今も増税相当分を節約している」と回答した。
全体の2/3が、節約している理由は「所得が増えていない(今後も増えそうにない)から」と回答した。